

第2学年 国語科学習指導案

2年B組 30名
指導者 西村 尚美

1 単元名 音読劇発表会をしよう

『お手紙』（光村図書 2年下）

2 指導にあたって

学習者は、これまで朝の読書タイムや週末の家庭読書の時間、学校図書館の利用等を通して読書に親しんできた。特に学校図書館の利用を楽しみにしており、本を借りるとすぐに夢中になって読む学習者も多い。しかし、文章を読んで物語の世界を楽しんだり、本の内容を理解したりすることが十分にできない学習者もあり、個によって読書量や読む本の種類に偏りが見られる。1学期の『スイミー』の学習では、場面の様子に着目し、スイミーの行動を想像した。学級全体で想像したことを共有しながら、スイミーの世界に親しむことができた。本単元では、二人の登場人物の行動や会話を具体的に想像する。表現力豊かに音読する活動を通して、その根拠となる言葉について考え、登場人物の行動と様子を詳しく読み、物語の世界を想像することができるようにしたい。そして、想像を広げて本を読むことの楽しさを味わうことで、学習者が進んで読書に親しむ態度を養いたいと考え、本単元を設定した。

本単元では、『お手紙』を扱う。『お手紙』は、二人の登場人物の会話や行動を中心に物語が展開していく。会話の際のがまくんとかえるくんの表情や口調、様子などを想像することで、登場人物の心情の変化を読み取ることができる教材である。登場人物の表情や口調、しぐさなどを具体的にイメージしたり、行動や会話の理由を想像したりしながら登場人物になりきって音読することができるようにしたい。

本単元における学習者の活動目標は、『お手紙』の学習を基に登場人物の会話文を学習者が想像してオリジナルの台本を作り、音読劇にして発表することである。オリジナルの台本を作るにあたり、がまくんやかえるくんへの理解を深めるために、がまくんとかえるくんシリーズの並行読書を行う。学習者一人一人ががまくんとかえるくんの物語の世界に想像を広げ、主体的に学習課題に取り組むことができるようにしたい。第一次では、活動目標を基に単元の計画を立てる。第二次では、挿絵や会話文を根拠にしながら自分の考えを形成し、友達と伝え合う。他者の考えを聞いて自分の考えが広がるように、友達の考えのよいところを見付けたり、比較したりすることができるように話し合い活動を行う。学級全体でそれぞれの考えを共有することで、場面の様子や登場人物の気持ちをより深く想像して読むことができるようにしたい。また、登場人物の気持ちを考えて音読する活動を通して、読み方を工夫したり、動作をつけて読んだりすることができるようにする。役割音読をする様子は、グループ毎にタブレットで撮影する。そして、撮影した動画や友達の音読について振り返り、さらに表現豊かに音読することができるようにしたい。撮影した動画は、それぞれのタブレットに保存し、第三次の活動をする際に生かすようにする。第三次では、グループで発表したい場面や役割を決定し、オリジナルの台本作りに取り組む。音読劇を発表するというゴールに向けて、友達同士で対話しながら読み方や動作・表情などを工夫し、協働的に学ぶことができるようにしたい。音読劇発表会では、学習者一人一人が主体的・対話的で深い学びを実現した成果を発表することができる場となるようにしたい。本単元の学習を通して、学習者が他者と対話することで自分の思いや考えを明確にし、深めたりできることを学び、自分の思いを表現する楽しさを感じるとともに、進んで自分の思いを表現することができるようにしたい。

3 単元の目標

- (1) 活動目標 音読劇発表会をしよう
- (2) 指導目標と単元の評価規準

指導目標	評価規準	評価の観点
○語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読することができるようにする。	○語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。	知識・技能 (1)ク
○場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができるようにする。	○「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。	思考・判断・表現 C(1)エ
○文章を読んで感じたことや分かったことを共有することができるようにする。	○「読むこと」において、文章を読んで感じたことや分かったことを共有している。	思考・判断・表現 C(1)カ
○言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切にしたい、思いや考えを伝え合おうとする態度を育てる。	○進んで場面の様子に着目して登場人物の行動を想像し、学習課題に沿って音読劇に取り組もうとしている。	主体的に学習に取り組む態度

4 単元の構想と評価計画

学習活動と学習者の意識 (全14時間)	主な指導・支援	評価規準
<p>事前 がまくんとかえるくんシリーズの本を読み進める。</p> <p>第一次 音読劇発表会をする計画を立てる。・・・1時間</p> <p>わたしは、かたつむりくんが出てくる場面を読みたいな。</p> <p>どの役にしようかな。どのように読むといいのかな。</p> <p>がまくんとかえるくんシリーズの本を読んで、二人のことをもっと知ろう。</p> <p>第二次 『お手紙』を読み、役割音読をする。・・・8時間 (本時7/8)</p> <p>①②『お手紙』を読んで、場面や登場人物の行動を確かめる。</p> <p>場面が変わるところで、場所が変わっているね。</p> <p>会話がたくさんあるね。だれが何を言ったのかを確かめよう。</p> <p>登場人物は、がまくんとかえるくん、かたつむりくんだね。</p> <p>③④悲しい気持ちで手紙を待つ二人の行動や様子を想像して役割音読をする。</p> <p>「かなしい時」や「ふしあわせ」という言葉からがまくんの気持ちが分かるね。</p> <p>「ふたりともかなしい気分」と書かれているから、かえるくんも悲しい気持ちなんだね。</p> <p>挿絵を見ると、二人とも同じポーズをしていて、表情も同じだよ。お手紙が来るといいな。</p> <p>⑤かえるくんの家でのかえるくんの行動や様子を想像して役割音読をする。</p> <p>「大いそぎ」や「とび出し」という言葉からかえるくんが慌てている様子が伝わるね。</p> <p>かえるくんのお手紙が、早くがまくんに届くといいな。きっと喜んでくれるだろうな。</p> <p>かえるくんは、早く手紙を届けたいのに、かたつむりくんに頼んでいるのがおもしろいな。</p> <p>⑥がまくんの家での二人の行動や様子を想像して役割音読をする。</p> <p>かえるくんは、3回もゆうびんうけをのぞいているのに、お手紙はまだ来ないね。</p> <p>がまくんは、「あきあきした」と言っているから、お手紙が来るのを待つのもつらいのかな。</p> <p>手紙が来ると知っているかえるくんと来ないとあきらめているがまくんの様子の違いがおもしろいな。</p> <p>⑦⑧幸せな気持ちで手紙を待つ二人の行動や様子を想像して役割音読をする。</p> <p>「しあわせな気持ち」という言葉から、がまくんはとてうれしなことが変わったことが分かるね。</p> <p>お手紙に「親友」と書かれていて、がまくんはとてうれしかっただろうな。</p> <p>挿絵の二人の様子もとてもうれしそうだね。二人はどんな話をしているのかな。</p> <p>第三次 オリジナル台本を作って、音読劇発表会をする。・・・5時間</p> <p>①グループで音読劇をしたい場面を決めて、オリジナルの台本を作る。</p> <p>かたつむりくんががまくんにお手紙を渡す場面に三人の会話を入れたいな。</p> <p>ぼくは、がまくん役になりたいな。悲しい気持ちのときの読み方は、声を小さくしよう。</p> <p>読み方や動きを考えて、台本に書き込もう。どのように読めば、気持ちが伝わるかな。</p> <p>②③④役割を決めて、音読劇の練習をする。</p> <p>がまくんの顔をのぞき込みながら、読もうかな。動きもつけたいな。</p> <p>友達の読み方が良かったな。わたしももっと読み方の工夫を考えよう。</p> <p>動画を見返してみると、よく聞こえないな。声の大きさや読む速さに気をつけよう。</p> <p>⑤音読劇発表会をする。</p> <p>がまくんの悲しい気持ちが分かるように小さい声で読んでるのが良かった。</p> <p>かえるくんが窓からのぞき込んでいたのが分かりやすかった。</p> <p>ナレーションがゆっくり読んだり、間を開けたりしていて、工夫しているのが伝わった。</p>	<p>がまくんとかえるくんシリーズの並行読書</p> <p>○がまくんとかえるくんシリーズの読み聞かせや読書経験を基に、活動への関心を高め、活動への見通しを具体的にもつことができるようにする。</p> <p>○場所を基本に場面を分け、登場人物やその主な行動を整理し、音読劇に取り組むという意識をもたせる。</p> <p>○挿絵を切り口に、叙述に合わせて登場人物の行動を具体的に捉えさせる。</p> <p>○二人の悲しい気分の理由の違いに気付かせる。</p> <p>○「とび出し」などの語句を動作化することで、登場人物の行動をより具体的に想像させる。</p> <p>○「あきあきした」や繰り返しの言葉などから、二人の行動の違いを具体的に想像させる。</p> <p>○悲しい気持ちと対比させながら二人の気持ちを考えることで、登場人物の行動を具体的に想像させる。</p> <p>○登場人物の様子に想像を膨らませて会話文を作り出し、オリジナルの台本を仕上げさせる。</p> <p>○役割を決めて、読み方や音読の工夫を書き込ませる。</p> <p>○友達の助言をそのまま取り入れるのではなく、自分の考えと比べた上で決めさせる。</p> <p>○それぞれの工夫の良かった点を中心に感想を交流する。</p> <p>○想像したことを音読劇で表せたかななどを振り返らせる。</p>	<p>○活動に興味関心をもって取り組もうとしている。(発言)</p> <p>○場面の違いや登場人物の行動など、内容の大体をとらえている。(発言・ワークシート)</p> <p>○登場人物の行動やその理由、表情、口調、様子などを想像している。(発言・ワークシート・音読)</p> <p>○かえるくんの行動やその理由、表情、口調、様子などを想像している。(発言・ワークシート・音読)</p> <p>○登場人物の行動やその理由、表情、口調、様子などを想像している。(発言・ワークシート・音読)</p> <p>○登場人物の行動やその理由、表情、口調、様子などを想像している。(発言・ワークシート・音読)</p> <p>○これまでの学習を生かし、想像したことを音読劇に表そうとしている。(観察・発言)</p> <p>○友達の助言や読み方から、自分の読み方を考えて音読劇をしようとしている。(観察・音読)</p> <p>○読み方や動きについて思ったことを伝え合っている。(発言)</p> <p>○語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。(音読)</p> <p>○友達の発表を聞いて、読み方と動きについて思ったことを伝えている。(発言・ワークシート)</p>

5 本時の学習

(1) 本時の指導について

本時は、がまくんとかえるくんが幸せな気持ちで手紙を待つ場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することをねらいとする。手紙を悲しい気持ちで待つ場面と対比し、がまくんの気持ちの変化に気付かせる。そして、がまくんの気持ちが変わった理由を話し合い、手紙が届くことの幸せやかえるくんが親友であることの幸せをがまくんが感じていることを想像することができるようにする。幸せな気持ちで手紙を待っている時のふたりの気持ちを発表し合う活動では、がまくんの喜ぶ姿がかえるくんを幸せな気持ちにしていることに気付くことができるようにするとともに、登場人物の幸せな気持ちを学級全体で共有することができるようにする。役割音読では、対話を通して学んだことを生かして音読する。また、撮影した動画を見て友達の表現のよさや工夫を伝え合い、友達と協働して学ぶことができるようにする。

(2) 目標

① 活動目標

お手紙が来るのをまっているふたりの気持ちを考えて音読しよう。

② 指導目標

登場人物の行動やその理由、表情、口調、様子などを想像することができるようにする。

(3) 展開

学習活動	主な指導・支援	具体の評価規準
1 本時のめあてをつかむ。 お手紙が来るのをまっているふたりの気持ちを考えて音読しよう。	1 前時までの振り返りをし、本時の学習のめあてにつなげる。	登場人物の行動やその理由、表情、口調、様子などを想像している。 (発言・ワークシート・音読)
2 がまくんの気持ちが変わったところを見付ける。	2 がまくんの台詞に着目して、がまくんの気持ちが変わったところとその理由を考えさせる。	
3 幸せな気持ちで手紙を待っているふたりの気持ちを考えて、発表し合う。	3 手紙が届くのを待つ幸せだけでなく、かえるくんという友達の存在に対するがまくんの幸せな気持ちや、がまくんの喜びに寄り添うかえるくんの気持ちを想像することができるようにする。	
4 役割音読をする。	4 撮影した動画や友達の発表を聞いてよかったところを見つけて伝え合い、工夫して読むことができるようにする。	
5 本時の学習を振り返り、次時の見通しをもつ。	5 役割音読を振り返り、次時への意欲を高める。	

(4) 本時の評価

「十分満足できる」と判断される状況	登場人物の行動を具体的に想像して、進んで気持ちを発表したり、工夫して表現したりすることができる。
「おおむね満足できる」状況を実現するための手立て	悲しい気持ちでお手紙を待つ場面のワークシートを見て二人の気持ちを振り返ったり、二つの場面の挿絵を比較したりすることで想像することができるようにする。 友達の発表や音読を聞いて、自分の表現に生かすことができるようにする。